

黒田麴廬 茲發 洋學者、漢學者。文政十年三月近江國膳所生れ、明治二十五年十一月十四日歿（一八七一九）。講行元、字大道、通稱竹次郎、黒田行。緒方洪庵、伊東玄朴に就き蘭學を修め、巖垣月洲に漢學を學ぶ。文久二年幕命により番書調所に仕出、維新前、歸藩して藩費運義堂督學となり、漢學、洋學を教授。英獨佛各國語は疎かサンスクリットにまで通じた、我が國言語學界の先覺者（藤本尚則）で、その學識は理化學にも及んだ。

著書に『新曆助解』全二冊（明治六年一月京都・石田治兵衛等四書林刊）、『頭書』、『畫入萬國地名往來』（明治六年六月文明書林藏版）、『開化新説』（明治七年五月京都・文栄堂）、『大意世界都府盡』（明治七年五月京都・文栄堂）、『政體新論』（明治七年七月京都・文栄堂）、『世界地圖用法』圖共全四冊（明治七年十一月京都・正寶堂、瑞巖堂、文栄堂）他多數。

